



海田中だより

海田町立海田中学校
平成28年度12月22日号

学校教育目標：「学び続け 気づき 本気で考え 正しく判断し 進んで実践する生徒の育成」

目指す姿を明確にし、強い気持ちを持って

校長 津田 和也

今年も残すところあと10日となりました。小雨の降る中、今朝も校門では地域の方々がいさつを交わしながら生徒たちを温かく見守ってくださいました。また、校門から少し離れた大通りの交差点においても西田町長さんがいつものように立たれ、同様に生徒たちに声をかけ見守ってくださっていました。地域の大事な宝である海田中学校生徒のために何かできることはないかとの思いで毎日見守っていただいているものと感謝申し上げます。ありがとうございます。

この1年を振り返ってみますと、各教科の授業、掃除や係・委員会活動、体育祭や文化祭などの行事に向けての取組み、生徒会活動に部活動、そしてボランティア活動と生徒の頑張る姿が多く場面で見られました。一方で残念なことです。マイナスとなる状況もありました。ものが壊れたり人の心や身体を傷つけたりする言動が少なからず起きている現状もありました。取り返しがつかないような加害者にも被害者にもなってはならないと、その都度、そして日常的に様々な場で指導を行ってきたところです。

終業式の式辞でも述べたように人は変われます。今年失敗したことは来年に引きずらず、自分がめざす姿を明確にし、強い気持ちを持って新しい年を迎えて欲しいと強く願っているところです。

さて、次の作文を紹介します。「人としてのあり方」「人を大切にするとは」など、ご家庭において話題にしていただき、思いやり溢れる穏やかな気持ちで新年を迎えていただければ幸いです。

全国中学生人権作文コンテスト入賞作文 日本放送協会会長賞

「名前も知らない、あなたへ」 福岡県大野城市立大野中学校 3年 大塚 奏

今こうして、名前も知らないあなたへ手紙を書いています。あて先も分からない便りですが、いつかあなたの目に留まることを願いながら、書き進めます。

昨年12月5日の夜、自宅の電話が鳴りました。私たち家族が暮らす福岡県の隣、佐賀県の警察署からでした。

「捕まえました」。その前の年の5月、私たちの家に侵入し、お金を盗んだあなたを逮捕したという知らせでした。

家族でプロ野球観戦に出かけた、あの夜。マンションの外壁工事の足場を伝い、5階の留守宅に侵入したあなたは、母が台所の引き出しに収めていた一万円札7枚と、小銭をまとめていた小さな袋を持ち去りました。

表情を失った母、厳しい口調で通報する父、慌ただしく動き回る警察の方々。日付が変わり、ようやく少し落ち着いた頃、父と母が同時にまったく同じことを口にしました。

「金で済んで良かったな」「本当、お金だけで良かった」。この言葉の意味が、理解できますか。中学1年の私と小学4年の弟。もしも、子どもたちだけで留守番をしている時に泥棒が入っていたら、驚いて叫び声を上げていたら、どうなっていたことか。両親は最悪の場面を想像したのです。

翌日、家中の窓に二重、三重の補助鍵を取り付けました。外出前も帰宅後も、母は何度も何度も鍵を点検するようになりました。子どもだけの留守番もできなくなりました。

よく聞いてください。あなたが盗んだのはお金だけではないのです。何より大切な子どもの安全を脅かされ、金額では表せない恐怖を植え付けたのです。私と弟を守ることを考えてくれる両親の姿に、私は、あなたを絶対に許さないと、一時は心に刻みました。

1年7か月後のまさかの逮捕に、私と弟は興奮して、あなたの名前や年齢、住所などを次々と父に尋ねました。でもなぜか、答えてくれません。納得できない私たちに、父は古い新聞記事を見せながら、10数年前の自分の過ちを打ち明けてくれました。

当時、私たちが住んでいた町で、高齢の夫婦が30代半ばの息子を殺すという事件がありました。職を失い、トラブルを起こしてばかりの息子のために、夫婦はいつも謝っていました。そんな日が6年も続きました。

ある夜、息子が近所の保育園を名指して「園児を殺す」と予告しました。それを食い止めるため、父親は決断しました。翌朝、眠っている息子の頭を木のバットが折れるまで殴り、スカーフで首を絞めました。動かなくなるまで足を押さえていたのは、母親でした。

裁判では、執行猶予の判決が言い渡されました。裁判長は「同じ苦しみを持つ家庭の力になってほしい」と諭したそうです。

しばらく後、父がよちよち歩きの弟と散歩をしていると、向こうからその夫婦が寄り添うように歩いてきました。一瞬、目が合いました。父は仕事の関係で二人の顔を知っていましたが、気付かないふりをしました。

すると、夫婦は腰を深く、深く折って、繰り返し頭を下げながら通り過ぎていったのです。顔を伏せ、もう二度と目を合わせようとせず。

「あの時、お父さんは『事情を知っている者の目』をしてしまったんだろう。それがご夫婦に伝わった。今でも申しわけない」と父は言いました。

私は、父が何も答えなかった理由に気づきました。社会に戻ってきたあなたと私たちが万が一顔を合わせた時、「あの時の犯人だ」という表情をすることがないように。そのことで、懸命に立ち直ろうとするあなたの心を傷つけたり、逆上したあなたが私たちに危害を加えたりすることがないように、と。

今回の事件をきっかけに、償いについて考えました。償いとは、加害者が反省から更生へと踏み出すことについて、被害者が許し、認めること。そして、加害者が二度と同じ過ちを繰り返さないこと。この二つがそろって初めて、償いになる。これが、今の私なりの結論です。

私たち家族は、あなたを許しています。償いの半分は終わりです。しかし、本当に苦しく、難しいのはこれからです。再犯率という恐ろしく大きな数字がそれを証明しています。

あなたは今、どこで、何をしていますか。働くことで7万円を得ることの大変さ、働いて得た7万円の重みを感じていますか。「あいつは泥棒だったんだ」という卑怯なささやきが、耳に入ってくることはありませんか。それは、立ち直ろうとするあなたの心をくじくでしょう。でも、耐えてください。それを言い訳にして、逃げないでください。

私はあなたの名前も、顔も知りません。それでも、あなたを見ています。償いを成し遂げる日を待っています。逃げない、負けないあなたであるよう、応援しています。

「PTAそうじの会」への協力に感謝！

12月3日（土）に恒例となった「PTAそうじの会」が開催されました。今年は例年を大きく上回る200名を超える多くの参加がありました。今回は生徒・保護者・教職員に加え、地域の方々にも協力を依頼し、海田警察署生活安全課長、少年育成官、少年補導協助員、自治会長、民生委員児童委員の皆様にもご協力いただきました。

開会行事では富永PTA会長さんのあいさつの後、折出教諭による「トイレの神様」の弾き語り（フルコーラス）で参加者の掃除へ向かう気持ちを高めました。天候にも恵まれトイレをはじめ玄関や廊下、窓などピカピカにすることができました。掃除に夢中になって写真を撮影していないので画像を提示できないのが残念です。約1時間の掃除の後には、PTA役員の皆様が準備してくださったうどんとおむすびをおいしくいただきました。校舎も心もさわやかにきれいになりました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

